諏訪清陵SSH便り

諏訪清陵高等学校
11 月号その 4
平成 26 年度 第 22 号
（平成 22 年度指定）

信州サイエンステクノロジーコンテスト（科学の甲子園県予選）参加

物理部門 及び、地学部門で 長野県 1 位 獲得

物理・地学の表彰状を掲げる出場メンバー23 名

物理 1 位の清陵Ａチーム代表（左端）

地学 1 位の清陵Ｂチーム代表（右端）

11 月 15 日（土）松本市信州大学理学部で第 4 回信州サイエンステクノロジーコンテストが開催されました。このコンテストは第 4 回科学の甲子園全国大会長野県予選を兼ねています。

全県から長野、長野清泉、屋代、松本深志、松本秀峰、大町、木曽青峰、伊那北、飯田、野沢北、東海大三そして本校の４チーム等、全県から 24 チームが参加して催されました。**本校からは、ＳＳＨコースチーム、2 年生希望者チーム、そして 1 年生参加希望者チーム 2 チームの計 4 チームが参加**しました。

コンテストでは、数学、物理、化学、生物、地学、情報の 6 科目について、図表・グラフ・地図などを含む文章（「非連続型テキスト」）が出題され、問題文を読み解く力、すなわち「情報の取り出し」・「解釈・理解」・「熟考・判断」が求められる問題が出題されます。そして、解答には、自分の「意見を表現する」こと、答えを出すための「方法や考え方を説明する」ことが求められます。高校卒業レベルの基礎的な知識を必要とする相当難解な問題ですが、高校 1，2 年生でも基礎知識をもとに問題文を熟読し、大切な情報を取り出し、そこから考察することで解が得られる問題でした。1 チーム 6 人の仲間で協力しながら 6 科目を 2 時間かけて解答しました。

本校は第 1 回大会優勝、第 2，3 回と第 2 位を獲得してきました。今回、入賞は叶いませんでしたが、**物理、地学の、2 分野で長野県 1 位を獲得することができました。**

問題文、データや図表を熟読して情報を抽出しながら熟慮して問題を解くことは大変だったようですが、大変充実感のある体験だったようです。二年生もやりきった感を感じたようです。また、1 年生の中には**「今回の経験を踏まえて、来年もぜひ挑戦しよう」**との声が聞こえました。

なお、**優勝は松本深志**の二連覇でした。

また、当日は上田高校出身、株式会社アクセルスペース取締役宮下直己氏による**「民間による人工衛星開発ベンチャーの挑戦と‘宇宙を使う ‘時代で活躍する皆さんへ」**という講演を聞くことができました。宮下氏が少年のころからの宇宙開発の夢を実現し、今も新たな挑戦をしていることに感銘を受けました。

物理部門県 1 位の発表を聞き喜ぶ清陵Ａチームの面々